利根書店（群馬に12店舗、栃木に１店舗など）

男たちが支えるリアル店舗

上右国道50号沿いにある「利根書店前橋野中店」の看板　＝前橋市野中町

上左「利根書店太田高林店」の中古ＤＶＤコーナー。２㍍ほどある棚には商品がびっしり

中暖簾をくぐると商品数の多さに圧倒される

下利根書店の店内では、吉川充秀社長が商品の魅力を紹介する映像が流れている　＝いずれも太田市高林東町

「街の書店」が次々と消える中、群馬や埼玉を中心に拡大中の「書店」がある。幹線道路沿いで際立つ黒や黄、赤で描かれたド派手な看板が目印だ。出版不況やネット書店をものともせず、年に1～2店舗ずつ出店を続けている。

10月下旬の月曜夜10時過ぎ、太田市の国道407号沿い。周辺の店舗の灯が落ち、行き交う車もまばらな中、「利根書店」の看板が闇に浮かぶ。

書店を名乗りつつも、扱っているのは成人向けのＤＶＤや雑誌、アダルトグッズなどなど。看板には「男のＤＶＤ　３３３円～」とある。一般の書店と間違える客はいないのだろうか、などと思いつつ、品ぞろえが特に充実しているという太田高林店の扉を開けると、いきなり「18歳未満立ち入り禁止」の暖簾がぶら下がっていた。

２㍍ほどある高さの棚には商品がびっしりだ。新作と中古のＤＶＤを中心に、店内には約9万点が並んでいるという。新品は各店舗の扱いに大きな違いはないが、中古品の多くは一点もの。「中古ＤＶＤを目当てに、いろんな店舗を回ってくださる、そんな『はしごトネラー』に支えられています」。運営会社ブリマベーラの吉川充秀社長(47)は話す。

充実した品ぞろえには買い取りが不可欠だ。店頭のほか宅配便でも受け付け、年間約１３０万点を買い取る。ＤＶＤや雑誌を段ボールごと処分できるスペースも用意。24時間受け付けている。

利根書店は１９９８年に太田市内のコンビニ跡地で第1号の尾島店を創業。その後、じわじわと店舗網を広げ、現在24店舗を構える。運営会社の売り上げは11期連続で増収増益中で、コロナ禍で客足が落ちた3～5月も「巣ごもり需要」やネット販売に力を入れた効果があり、売り上げは前年から微増という。1人10万円の国の特別定額給付金が入り、緊急事態宣言が解除された6月は売り上げが25％アップ。「バブル状態だった」と吉川社長。「貯金に回った」と苦々しく語っていた麻生太郎財務相も喜びそうだ。

通常イメージされる書店業界は苦しい。書籍と雑誌を合わせた推定販売金額は１９９６年の2兆６５６４億円をピークに、２０１９年には半分以下の1兆２３６０億円（出版科学研究所調べ、電子書籍除く）となった。一般社団法人の日本出版インフラセンターによると、一般的な書店数は２０１９年度末で1万２６００店余りで、10年前の4分の3に。群馬県内ではチェーン店などを除き毎年数件が廃業し、県書店商業組合加盟店はピーク時の8割減の34店舗となった。

ただ、ＤＶＤ販売業界も競争は激しい。ネット通販や動画配信サイトに勢いがあり、家賃や人件費がかかるリアルな店舗は「価格競争では太刀打ちできない」（吉川社長）。既存のＤＶＤ店を店舗ごと買収するなど、コストの抑制に努めているという。

なぜ最安値を３３３円にしたのか社長に聞いてみた。「お客さんはパチンコが好きな層とも重なる。パチンコで『３３３』はフィーバー。ただの３００円よりインパクトがありませんか。あと、この33円が利益に地道に、大きく貢献してくれているんです」　（森岡航平）

メモ

利根書店　群馬県に12店舗、埼玉県に8店舗、長野県に3店舗、栃木県に1店舗を構える。営業時間は全店舗午前10時～翌午前2時。運営会社のブリマベーラ（太田市西本町）は、ブランド品の販売・買い取り店や整骨院なども展開している。

◎ 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。